

ガバナーメッセージ

6月は『ロータリー親睦活動月間』

国際ロータリー第2590地区ガバナー **小倉 正**



2021-22年度の最終月である6月になりました。2021年7月1日ガバナーに就任し、今月末の任期の1年間を振り返ってみますと、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によりロータリー活動も多大な影響を受け、ガバナー公式訪問も8月・9月の2カ月間は中止せざるを得ない状況となりました。

10月からは緊急事態宣言が解除されましたので公式訪問が再開され、11月中旬に代替訪問を含め全て終了いたしました。地区大会の開催については、緊急事態宣言下の8月中旬までには開催日時、開催方式等の最終決定を行わねばならず、RI会長代理を始めとする来賓の招待を断念し、地区内会員だけの対面方式での開催を決断いたしました。しかしながら、10月以降感染者の急激な減少により、通常の年度に近い形で開催する事ができました。しかしながら、地区大会の終了した翌日発表された変異株であるオミクロン株による感染拡大により、今日まで感染者の大幅な減少とはならず、ロータリー活動は大きく制限されてしまいました。

私にとって、ガバナー就任要件(出席義務)である国際協議会が新型コロナウイルスの世界的感染拡大による影響でオンライン協議会となってしまう、志村ガバナーエレクトの国際協議会も私の時と同様にオンライン協議会となってしまう2年続けたのオンライン国際協議会となり2年続けて国際ロータリー会長と直接会えない状態となりました。

日本全国の新型コロナウイルス感染者は先月5月初旬には800万人を超えており、終息の見通しが立たない状況でのロータリー国際大会(2022年6月4～8日)への出席については、バーチャル

で参加する事にいたしました。(本来でしたら期間中ガバナーナイトを開催する予定でしたが断念いたしました。)

又、当地区の最大の課題は、地区会員の減少が続く今日、「会員の減少を食い止め、いかに増加に転じる事ができるか」の会員増強の問題であると考えるようになりました。それには各クラブがロータリーの目的に沿ったクラブ創りによるさらなる基盤の充実と強化が必要であり、その事を地区方針に揚げましたが、コロナ禍で例会が休会やオンライン例会等で対面で会う機会が減少し、会員数は年度初めに比べて微減という状況で年度末を迎えてしまうのではないかと考えています。当年度も残り1カ月で諸行事も大凡終了いたしました。吉田ガバナー年度に始まった女性交流会を今月14日に開催し、女性比率の向上に重点を置いた増強を促進できればと思っています。

今月のロータリー特別月間は『ロータリー親睦活動月間』です。

親睦を中心とした職業人の交友の場であり、職業人が友愛の精神をもって互いに助け合うという親睦団体としてのクラブがロータリークラブのスタートであり、ポール・ハリスの想いは、会員同士の事業の利益の促進を中心とした職業上の交流に加え、仲間の友情・友愛的な親睦組織を創ることと解され、それがロータリーの原点であると思っています。

この様に親睦からスタートしたロータリーは会員相互の親睦によって会員の満足度を高め、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むというロータリーの目的達成に向けての更なる発展を促すことになると思います。